

11月7日(日) 上・下崎山町内会 敬老者へ記念品配布がありました



11月7日(日)崎山地区の敬老者へ記念品を配布しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、敬老会は開催せず記念品配布となりました。朝早くから町内会の皆さんで記念品の準備をして、婦人部会さん・町内会長さんでお届けしました。上崎山町・下崎山町の総代・副総代さんは、“新規敬老者”“米寿”“最高齢”の方々にお届けしていました。皆さん嬉しそうな笑顔で、「おめでとうございます。」「ありがとうございます。」のやり取りがあり、私も見ているだけで嬉しくなってきました。

崎山地区で最高齢は、“**102歳**”です。皆さんもいつまでも元気で、長生きしてくださいね!!!(*'▽')



Instagramで、まち協をフォローしよう!

崎山地区人口統計表 (令和3年11月30日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	74	74	48	55	58	55	72	96	95	40	42
女	88	85	64	74	67	68	79	110	97	53	51
合計	162	159	112	129	125	123	151	206	192	93	93

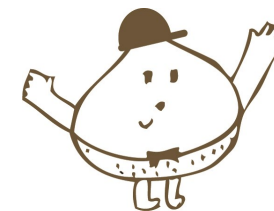
崎山地区全体 男 709名 女 836名 計 1,545名 (先月比±0名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第20号



第1回植樹記念祭開催



11月13日(土)鐙瀬昆虫自然公園にて、“第1回植樹記念祭”を開催しました。去年の10月に鐙瀬昆虫自然公園を作り、クヌギ・コナラ・桜の木を子供たちみんなで植樹しました。それから1年が経ち、木も子供たちもどれくらい成長しているのか測定することにしました。みんな大きくなっていて、子供たちは平均で10cmも成長していましたよ♪初めて参加した子供たちも、クヌギの木を植樹しました。また来年が楽しみですね(*^^*)

測定の後、崎山の郷土料理を子供たちに食べてもらいたいと、上崎山老人会の田中さんに『ぼっぱずし』を作ってもらいました。カボチャもお店でよく見る緑色のカボチャではなく、「ちぢれかぼちゃ」を使い、他に「ささげ」「あわ」を入れ、味付けは塩のみ!素材の甘さが引き立ち、おじいちゃん・おばあちゃんが子供の頃に食べていた『ぼっぱずし』の味を再現しました。“美味しい”や“味がしない”といろんな感想がありましたが、みんな綺麗に食べてしていました。『みはらし荘』さんにおすそ分けしたのですが、“懐かしい”と喜んで食べていたそうです(*^^*)

他にも前号で紹介しました子供たちで掘った芋を、焼き芋にして食べました。自分たちでアルミホイルで包み、朝早くから用意した焚き火の中へ投入。つるし芋という方法も体験しました!窯の中に針金で芋をつるすのですが、焼き芋もつるし芋も両方ホクホクして美味しかったです♪

1日でいろんな体験をしましたが、皆さんお疲れ様でした。そしてお手伝いしていただいた皆さん、ありがとうございましたm(__)m

令和4年1月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol.5

2022.1.1 発行

発行責任者

崎山地区まちづくり協議会

代表 古里 幸一

090-2393-1990

・・・雨乞い（千駄焚き）の山 鬼岳・・・

河川の無い“崎山（さっきゃま）”地区 今年も農作物にとって雨が待ち遠しい時期があった。農業用共同貯水槽が設置されるまで、この集落はどう渇水期を乗り切ってきたのだろうか。ふと「雨乞い」が頭に浮かび、仕事仲間の先輩に聞いたところ昭和30年代初頭（1955年代）崎山地区でも各家から麦藁一束ずつ持って、鬼岳山頂に登り火を焚いたとの話を聴くことが出来た。全国的にも昭和30年代まで山頂での雨乞い（千駄焚き）儀式が見られたとあるが、現在は雨を降らしてもらうため神仏に懇請することはない。ただ、いつの時代から崎山集落でも雨乞いが始まったのか気になり文献を調べてみた。福江市史、南松浦郡崎山村郷土誌では「雨乞い」記述は無く、長崎県第二十八大区の三の小区時代（明治5年～明治22年3月）では、文献そのものを見つけることができず、唯一『五島編年史 中島功著』を頼ることとなった。そこには鬼嶽（鬼岳）で雨乞い・千駄焚きとして5件の記述があり、最古の記述は今から227年前 光格天皇 寛政六年甲寅（きのえとら）7月22日 千駄焚きの項に・・・夏秋雨降らず早魃につき明星院亮快は八幡宮にて祈祷した後 鬼嶽にて地下四ヶ村（福江本山大浜崎山）より千駄焚きを行じ亮快祈祷す 其晩雨降り万民喜ぶ・・・とある。その後、寛政十年、文化六年、天保六年、嘉永五年にあるが、その後、明治5年までの記述は無い。水不足を死活問題として村人がいかに神仏にすがってきたか、鬼岳が雨乞い儀式を行う山であったかを史実として知っていただきたい。

【千駄焚き：山上に薪をたくさん積み上げて火を焚き、鉦や太鼓を鳴らして大騒ぎする形態の雨乞い】



鬼岳頂上からの崎山地区



鬼岳頂上千駄焚き場所



鬼岳頂上

・・・鬼岳三峰（鬼岳・中岳・荒神岳）・・・

小学生時代、六年生が一年生の手を取りながら登る山が鬼岳であった。各自お弁当と水筒を持ち、火の岳に繋がる山道を通り、先ずは乾いた喉を荒神岳登り口の湧水で潤し、水筒にいれて荒神岳・中岳・鬼岳と登ったのが懐かしく思える。そこには河川の無い崎山での貴重な田んぼを見ることが出来たが、今は女竹に覆われ往時の面影は残っていない。今では聞きなれない三峰の名称は、いつの頃から呼ばれていたのだろうか？・・・『五島編年史』で調べてみると、今から374年前 後光明天皇 正保四年丁亥（ひのとい）五島藩主盛次公（1647年）遠見番所増設の項に「元来遠見番所七箇所ありしを改めて十一所となし益防禦の備を堅むと 即ち御嶽（福江鬼嶽）番所の位置は荒神嶽の西なる峰 即ち三山の中にして番士足輕の住家は臼井にありき・・・（原文をひらがなに変更）」と記載されている。江戸幕府 徳川家光将軍時代には三峰に名が付いていたことがわかる。現在、円状に布石した溶岩石の一部が見られるが番所跡だとは断定できない。



中岳頂上（遠見番所跡）

社会福祉法人さゆり会は、“崎山鑑瀬自然を守る会”“崎山地区まちづくり協議会”を応援しています。

センタタキ(千駄焚き) = 雨乞い

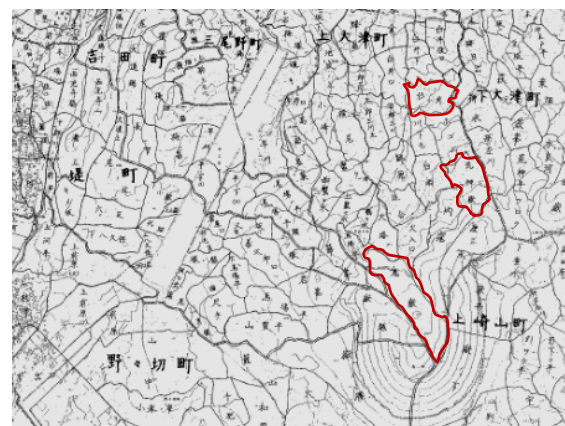
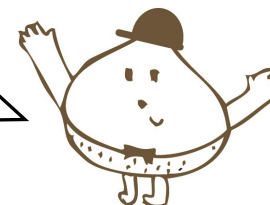
「センタタキ」とは、“雨乞い”をするため、枯草や柴などを持ちより、火を付けて燃やすことを言い、別名「センタキ」とも言う。なお、今1つの解釈では次がある。

「センタタキ」は枯草や藁、柴などを千駄(牛馬千頭で運ぶ量)を焚いて雨乞いをするということで、雨乞いをするため、藁、柴などの燃える物を千駄も焚くということから生まれた言葉である。

地下四ヶ村(鬼岳の麓)で雨乞いをしようとしたら、崎山だけ遅刻かもしくは行かなかったため、崎山だけ雨が降らないという言い伝えがあるとかないとか…(笑)

確かに福江から出勤していると、大津や長手入口付近までは雨が降っているのに、崎山に入ると雨が降っていないことが多いような…

～福江市史より～



字 図

色で囲っているのが、上から【臼井】【荒神嶽】【鬼嶽】です。

上空写真

遠見番所

寛永14年(1637)22代藩主盛利は幕府より初めて異国船方を拝命した。五島は日本の西端にあり、諸外国の船舶往来も多く、国防の要衝の地であるとの故を以て、充分配意し任務を怠らないように、と、言葉も添えられ、以下代々この下命が幕末まで続いている。このため江戸在役(参勤交代)を免除されることが当たり前になったという。

盛利は命を受け、領内の要地7か所を選び、遠見番所を設け、番士を置き、異国船の通航を監視させた。

・福江島 玉之浦 大瀬崎 ・福江島 富江 番所山 ・福江島 岐宿 崎野 ・黄島 ・嵯峨島 ・祝言島 ・宇久島

正保4年(1647)には、7か所だった遠見番所を11か所に増設している。

・福江御岳(鬼嶽)番所の位置は荒神岳西方の山

・奈留(水晶嶽) ・福見(奈良尾) ・供栖(有川・友住)

～岐宿町郷土史より～

～五島ジオパーク構想とは～

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」を組み合わせ「大地の公園」という意味です。ジオパークでは、見どころとなる場所を「ジオサイト」に指定し、多くの人が将来にわたって地域の魅力を知り、利用できるよう保護を行います。その上で、ジオサイトを教育やジオツアーなどの持続可能な方法で経済活動に活かし、地域を元気にする活動や、そこに住む人たちに地域の素晴らしさを知ってもらう活動を行う取り組みです。



五島列島ジオパーク構想
GOTO Islands GEOPARK Plan